nac today

様々な側面で善を行う（2026 年 11 月 9 日）

2025 年の年次標語は、世界中でその可能性を発揮しました。この標語を通じて教わったことを、11 月 12 日に行われる週中礼拝で改めて教わります。2026 年となった今でも変わらず大切です。ここでは、この標語に取り組んできた歩みを振り返ります。。

2025 年の新年のメッセージ

2025 年の初め、ジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は、「今こそ善を行う時だ」という標語を掲げ、新使徒教会員すべてのキリスト者に新年の挨拶を申し述べました。

主使徒は、2025 年最初の礼拝で、ガラテヤの信徒への手紙 6 章 9 ～ 10 節の聖句に基づき、この標語の意味を説明しました。

「お互いに善を行うにあたって、途中で疲れ果ててはいけません。落胆しなければ、定められた時に刈り取りの時を迎えるからです。ですから、私たちは機会のあるうちに、すべての人に対して、特に信仰の家族に属している人たちに対して善を行いましょう。」

主使徒は、教会の中で、家族の中で、そして特に子供たちに対して善を行うための時間を取るべき時が来ていると述べました。善を行うとは、常にすべての人を助けるために手を差し伸べることであると説いています。

標語を受けて
教区使徒や教区使徒補佐からの反響

この標語を具体化するするための、使徒たちによる所感をいくつかご紹介します。

「善を行う時が来ました。そこで、強く思いやりのある教会として次世代の人々の参画を促しています。」（アルノー・マルティグ / カナダ）

「私たちは誰もが同じ活動力、同じ賜物や才能を



持っているわけではありませんが、イエス様のように隣人が必要としている豊かな憐れみを育むことはできます。」（ピーター・ランバート / 南部アフリカ）

「私たちは善を行うにあたって、日時や条件に縛られたり、人から承認を得たりしません。なぜなら、私たちは善を行うように造られているからです。」（エリエ・タティエン・ムキンダ / コンゴ民主共和国西部）

「従って私たちは、福音を規範として生活し、神様を信頼し、永続するものを優先させることによって、隣人に対しても、自分自身に対しても善を行うのです。」（ミヒャエル・エールリヒ / 南ドイツ）

「善を行いたいと思うなら〔強盗に襲われた人を解放した善いサマリア人のように〕足を止める覚悟が私たちには必要です。」（リュディガー・クラウゼ / 北・東ドイツ）

「使徒パウロは、信徒たちに対して世間知らずであれと言ったのではなく、現実の懸念、特に霊的な懸念に対処していたのだと思います。善を行うことはイエス様の戒めです。」（ジョセフ・オペンバ・

エクヤ / 東アフリカ）

「最初は、先延ばしにしたり、言い訳をして時間を割いて神様からの行動の促しに従わないことがあるかもしれません。しかし、こうした機会をしっかりと掴み取って、実際に善を行いましょう。」（マーク・ウォル / カナダ）

「教会の中で善を行いましょう。常に一致を求め、自制心を養い、家族の中で愛を実践しようとする気持ちが必要です。」（エンリケ・ミニオ / 南米）

「善を行う時は、注意深く観察し、愛と憐れみ、時間とやる気を注ぎます。与えるとは見返りを期待しないことです。」（トーマス・ドイベル / スイス）

「どれほど取るに足らないことに思えても、時間を割いて善を行うことによって、私たちは暗闇に不平を言うのではなく、悪が勢力を拡大しても、自分自身の光を他の人々に分かち合います。」（チチ・チセケディ / コンゴ民主共和国南東部）

「キリストが皆さんの内に生きておられ、皆さんが善を行うか。あるいは、キリストが皆さんの内に住んでおられず、皆さんが善を行わないか。そのどちらかです。」（ジョン・シュナベル / アメリカ）

「献げ、犠牲を払う人生を忠実に歩むならば、自分の状況がどうであれ、神様との関係が深まり、心は喜びで満たされ、神様をさらに信頼することができます。」（アルノー・マルティグ / カナダ）

また、教区使徒補佐たちは次のように付け加えています。

「私たちの周りの人々に手を差し伸べ、温かい交わりと関係を育み、キリストの愛を分かち合うことにより、魂を配慮します。そうすることにより、多くの善を成し遂げることができます。」（フランク・ズール / カナダ）

「何かをしようとするきっかけが愛に基づくものなら、困窮している人々を助け、その人たちの成長に良い影響をもたらすことができます。」（ジョアン・ミセロ / アンゴラ）

「すべての信徒は、今という瞬間が、常に慈しみと思いやりをもって誠実に行動するための最適な時であることを認識しなければなりません。」（ロバート・ンサンバ / ザンビア）

関係を強め、善を行う

2025 年の標語は、世界中の兄弟姉妹を鼓舞して、創造性のあるロゴが発表され、様々な取り組みが行われました。

例えば、ドイツのシュヴェビッシュ・ハール教会では、2025 年の標語における特定の側面に焦点を当て、それに関する活動が行われました。

南アフリカ、スイス、南ドイツでの活動は、トロンボーン、歌、チョコレートのトリュフがどれほどの大きな影響力を持つかを伝えています。

「明るい未来を創り出す笑顔」という標語に沿って、トーゴの慈善団体は、真の善意が一過性のものではなく、継続的な実践であることを示しています。

ペルー、ザンビア、コンゴ民主共和国、スイスで行われた活動を通して、行動を伴う愛の意味を教えています。それは、道のりがどれほど険しかろうとも、さらにその先を行くものなのです。

ナックトゥデイ / 新使徒教会国際本部発行 / 原著　Sophie Berg / 挿絵　Google Gemini による AI 生成
日本語訳発行　〒 206-0014 東京都多摩市乞田 1320 日本新使徒教会 / (042)374-0070